

本号がお手元に届く頃には、2000年まで残りわずかの時期となっていることであろう。わが国のY2K(2000年)問題に対する取り組みの遅れが指摘され、にわか政府が動き出したのが1年ほど前である。その後各方面での動きが早まり、すでに対応を完了した業界も多いと聞く。

ただ、一般家庭においては小さなマイコンチップの組み込まれた家電製品など、ほとんど対応不可能な製品も多い。こちらはでたとこ勝負の感がある。そのせいもあってか、一般には、2000年問題は関心があっても、誰かがやってくれるだろう、何とかなるだろうといった風潮が強いようである。

医療分野においては、機器の動作不良が直接生命に関わる場合も多いことから、以前よりその対応が注目されていた。多くの医療機器は日付管理を行っていないため、たとえコンピュータが組み込まれていてもY2K問題は発生しない。わが内視鏡外科の領域においても機器の動作不良はまず生じないと思われる。もっとも、12月31日の深夜に好んで内視鏡下外科手術を行う人もいないであろうから、その面からも杞憂に終わる可能性が高い。

コンピュータ業界では万一に備えて、12月31日から多くの社員を待機させる体制を整え、他の業界でも多かれ少なかれ対応を余儀なくされることから、すでにホテルは予約で満杯と聞く。医療分野においても、国立病院では管理職に2000年を越える前後の時間帯に院内での待機が通達されたし、他の重点医療機関においても同様の処置が取られるはずである。

筆者も立場上、危機管理計画策定に深く関わっている。すでにあらかじめのコンピュータの対応は終了したが、当日の医療機器誤作動に備えて、「心電図モニターが動かなければ、脈をとる」?など、それこそ笑うに笑えない対応手段まで策定して、院内への徹底をはかっている最中である。

ところが実際にY2K問題に対処していると、重要なのはむしろライフラインであり、末端の機器をいくらバックアップしてみても、電気やガス、水道が使えなければ、すべてお手上げであることに気づく。もちろんエネルギーや水の備蓄は院内で可能であるので、正月の三箇日は何が起きても病院の動きが止まることはないと確信している。とはいえ、大晦日は院内に設置される対策本部で寝ずの番となりそうである。年越しそばをすすり、テレビ番組“行く年 来る年”でものんびりと楽しみながら正月を迎えるのも一興かと、そのために準備万端を心がけているところである。

備えあれば憂いなし。皆様のところはいかがでしょう。

(万代恭嗣)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第4巻 第6号) 1999年12月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1部定価(本体2,600円+税)(配送料85円)となります。1999年 年ぎめ予約購読料: 16,380円(配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会(代表: 出月康夫)

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9 (財)日本学会事務センター内

(☎03-5814-5801 Fax 03-5814-5820 担当: 高柳)

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 5-16-9 Honkomagome Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8622, Japan

©1999, Printed in Japan

発売: 株医学書院(代表: 金原 優)(本誌担当: 青木, 中田)

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802/E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文栄社 ☎03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。